



## 山陰の温泉の特集にあたって

北岡 豪 一<sup>1)</sup>

### Hot Springs in San-in District, Japan —Introduction—

Koichi KITAOKA<sup>1)</sup>

日本温泉科学会第67回大会が、山陰を代表する温泉地のひとつ、三朝温泉（鳥取県）で開催される運びとなり、これを機に、「山陰の温泉」の特集を組むことになりました。三朝温泉での大会は、これまで、1962年と1980年に開催されましたので、今回の大会は、34年ぶり3回目の開催になります。三朝温泉は、古くから温泉医療の研究が行われてきた歴史があり、国立大学附属温泉医療施設が廃止されてきた中で唯一温泉医学研究を進めておられるのが岡山大学病院三朝医療センターです。今回の大会において、光延文裕センター長に「三朝温泉と温泉療法」と題して公開講演をしていただきます。また、(独)日本原子力機構研究開発機構人形峠環境技術センターの石森 有博士には、岡山大学と共同で進められておられるラドン効果の研究について放射線のリスクも踏まえて公開講演をしていただきます。

鳥根県北東部から鳥取県を通り兵庫県北部までの山陰には古くから有名な温泉地が分布しています。放射能泉、塩化物泉、硫酸塩泉など多彩な泉質がみられ、湧出温度が高いことも特徴です。この地域の温泉は、いわゆる非火山性の温泉であるといえますが、温度の高い温泉がなぜ湧き出すのか、いまだ神秘のヴェールで包まれています。また、温泉の元になる成分についてもその由来は十分に明らかにされているとはいえません。近年における地球科学の進展にはめざましいものがあります。大会では、今話題の深部流体について(独)産業総合技術研究所の風早康平博士に公開講演をしていただきます。

今回の特集は、山陰の温泉のルーツを探ろうという試みでありまして、前日本温泉科学会会長の西村 進先生からは、山陰の温泉が壮大な地球の営みによるものであることを解説していただきました。また、この地で長く地震の観測を行っておられる西田良平鳥取大学名誉教授からは、地震活動と温泉の関係を解説していただきました。西田良平先生には大会で公開講演もさせていただきます。三朝温泉の近くで生を受けた私は、地下から熱いお湯が湧き出ることを不思議に思い続けておりますが、雨水が地下深くまで循環しているというひとつの可能性についてしたためてみました。しかし、なんといっても、温泉の現象は、地球の息吹であり、深いところに通じているというロマンを与えてくれます。この特集を通して、山陰の温泉に関心もたれ、非火山性の温泉についての議論が活発になれば幸に存じます。

<sup>1)</sup>元岡山理科大学 〒703-8236 岡山市中区国富1-8-9. <sup>1)</sup>Former Prof., Okayama University of Science, Present address : 1-8-9 Kunitomi, Naka-ku, Okayama 703-8236, Japan.